

堀川浄化の社会実験の状況について

- ・3年間の導水実績
- ・名古屋市による調査結果

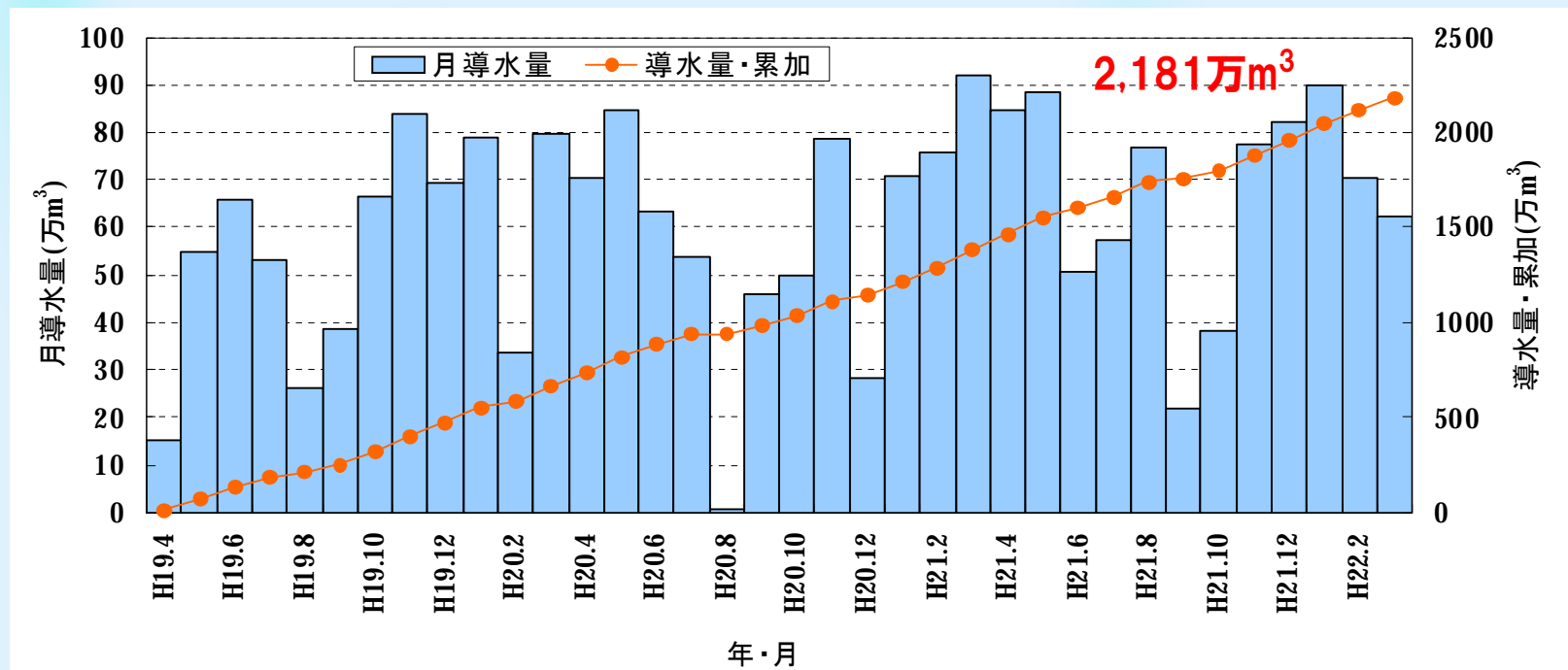
名古屋市緑政土木局河川部堀川総合整備室

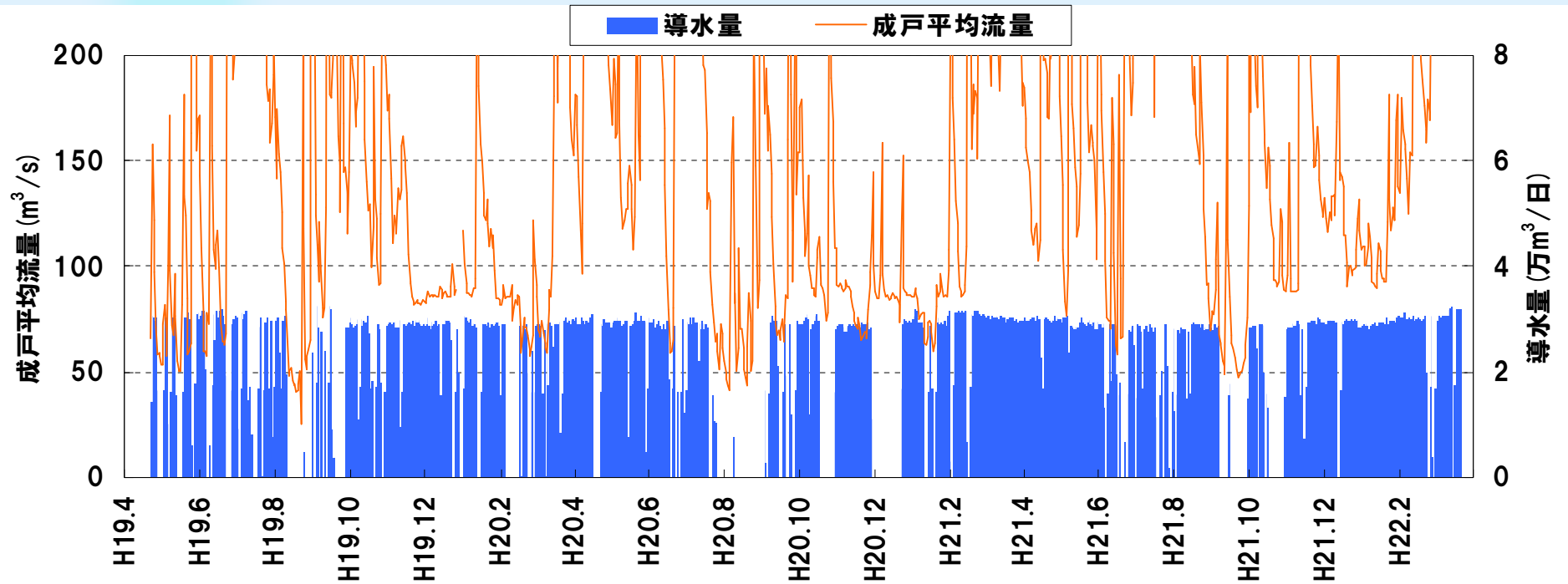
導水状況(平成19年4月22日～平成22年3月22日)

- 導水量 2,181 万m³
- 導水時間 17,774.9 時間 (741 日分)
- 停止時間 7,797.2 時間 (325 日分)
 - ・ 渇水による停止 2,700.3 時間 (113 日分)
 - ・ 大雨による停止 2,581.6 時間 (108 日分)
 - ・ その他の停止 2,515.3 時間 (105 日分)
- 導水率 69.5 %

年度別導水量の実績

年度	導水量 (万m ³ /年間)
平成19年度	667
平成20年度	714
平成21年度	800
計	2,181





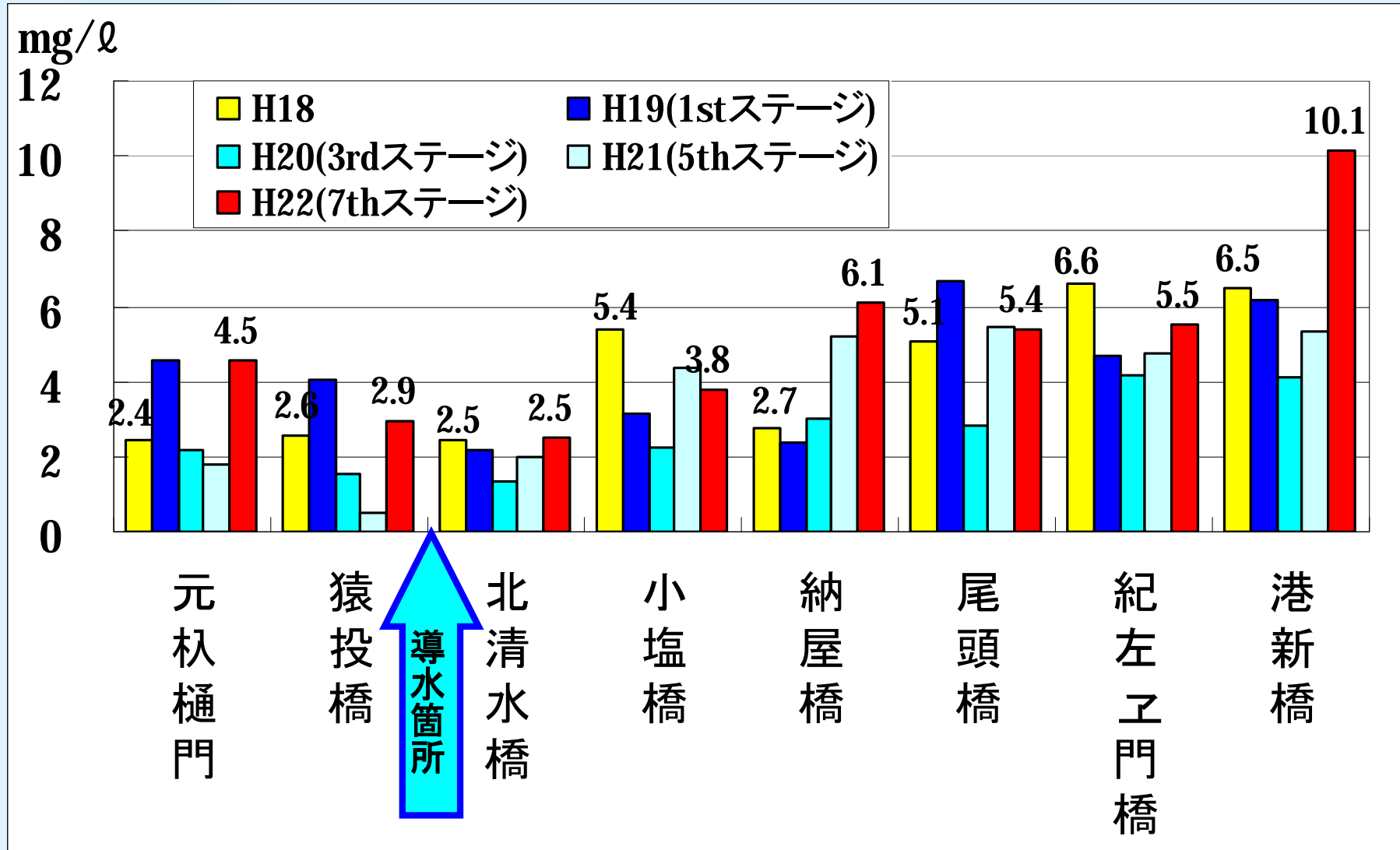
木曾川からの導水の状況(日導水量)

行政調査の 主な調査箇所図



BOD(生物化学的酸素要求量)調査結果(4月~6月の平均値)

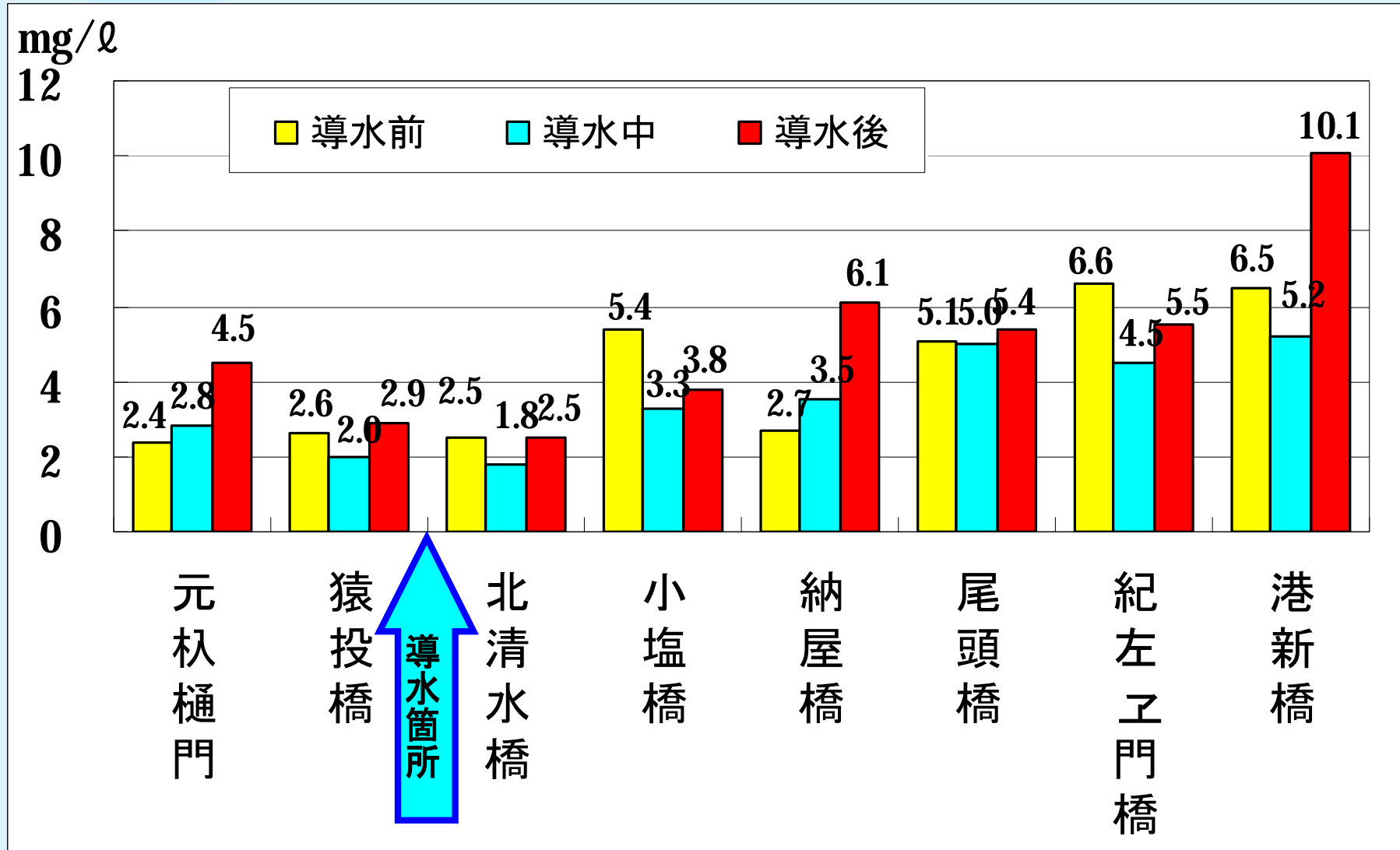
※導水時のみ(平成19年~平成21年)



※水質調査は、小潮の下げ潮時に行っている。 5

BOD(生物化学的酸素要求量)調査結果(4月~6月の平均値)

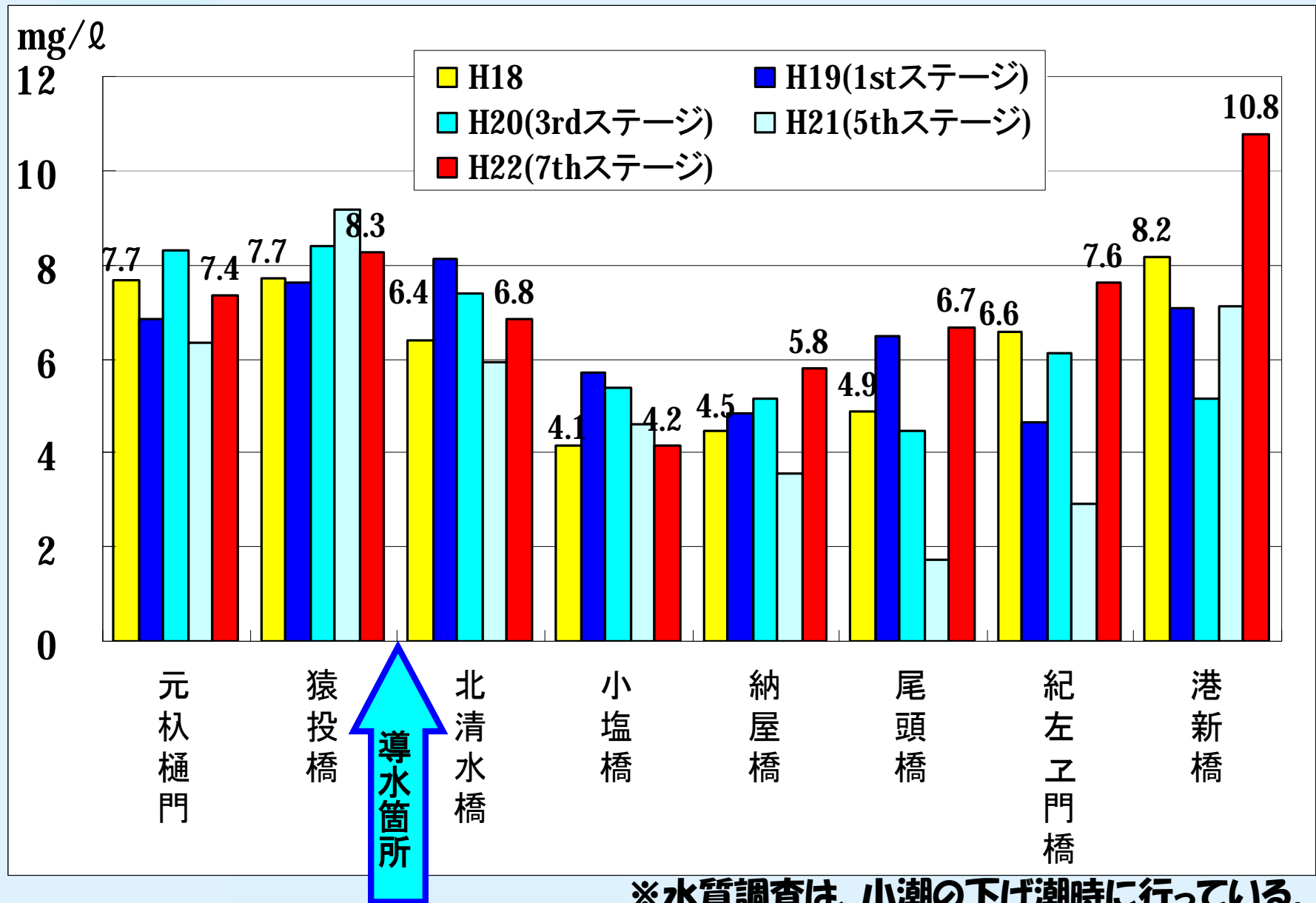
※導水時のみ(平成19年~平成21年)



※水質調査は、小潮の下げ潮時に行っている。 6

DO(溶存酸素量)調査結果(4月~6月の平均値)

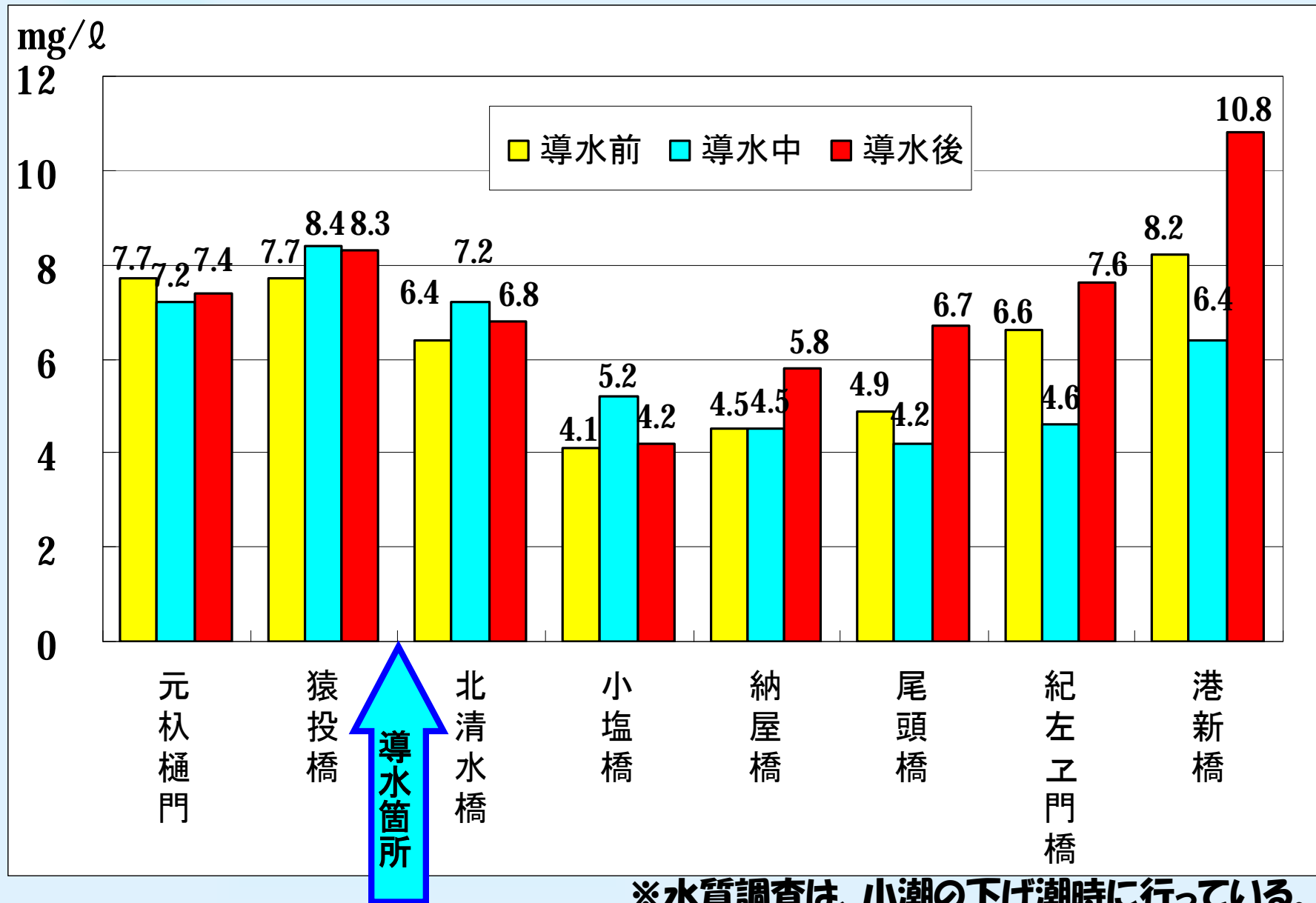
※導水時のみ(平成19年~平成21年)



※水質調査は、小潮の下げ潮時に行っている。 7

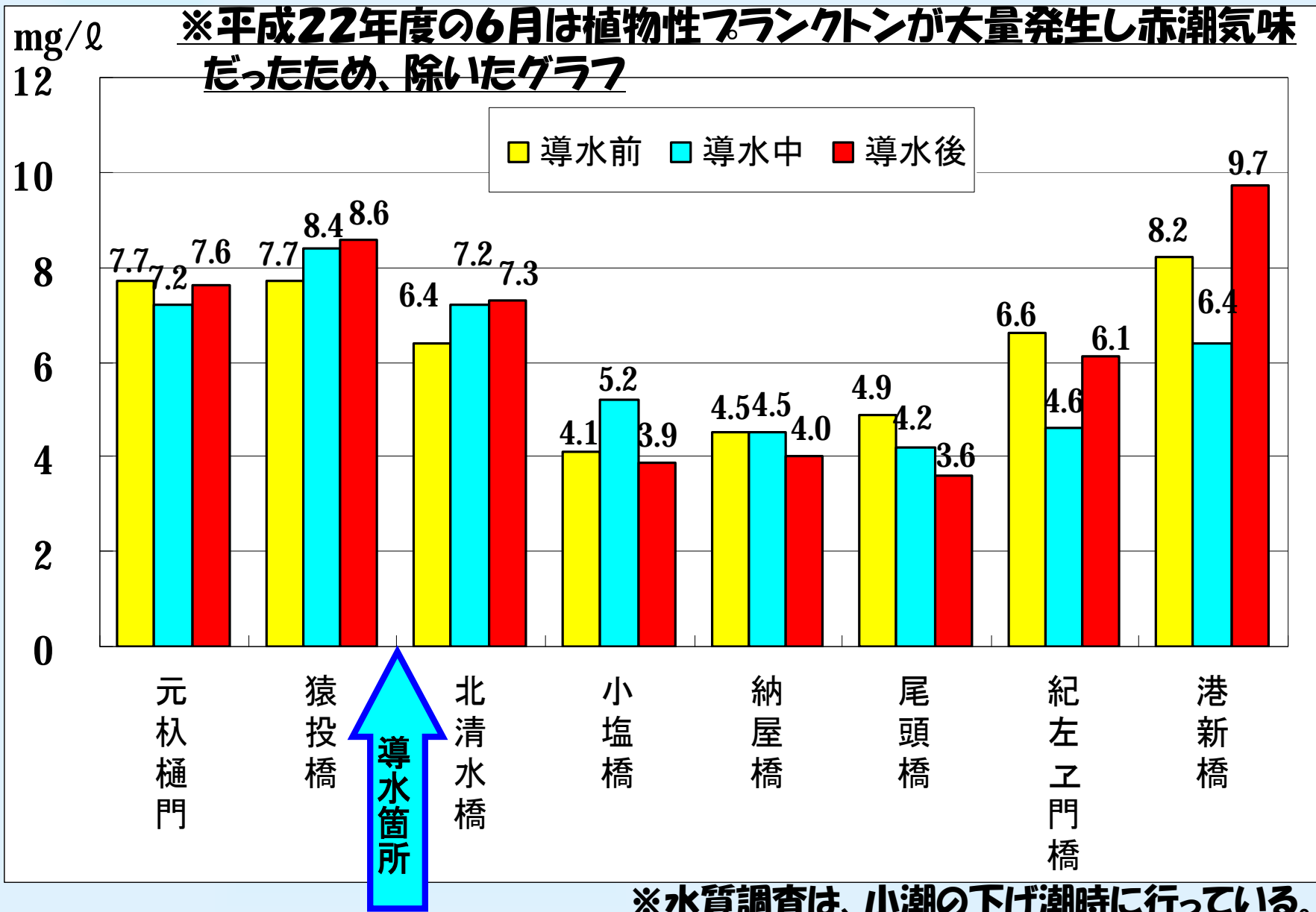
DO(溶存酸素量)調査結果(4月~6月の平均値)

※導水時のみ(平成19年~平成21年)



DO(溶存酸素量)調査結果(4月~6月の平均値)

※導水時のみ(平成19年~平成21年)



用語説明

BOD(生物化学的酸素要求量)

水中の有機物が微生物によって分解されるときに消費される酸素の量を表します。川などに流入した排水中の有機物の量を微生物の活動によって測定するもので、河川の有機汚濁状況を示す代表的な指標です。

DO(溶存酸素)

水中に溶けている酸素のことで、水生生物や、河川・湖沼の自浄作用には不可欠です。排水が流入して汚濁すると、DOは有機物の分解に使われて減少し、藻類が光合成を行うと増加します。DOが3mg /L以下になると魚などの生息が困難となります。